

経股静脈性骨盤静脈撮影法に就て

京都大学医学部泌尿器科教室 (主任 福田 務 教授)

講 師	後 藤 薫
助 手	酒 徳 治 三 郎
副 手	片 村 永 樹

緒 言

静脈撮影法は静脈系の病的条件の診断を適確にする方法であり、その歴史的概要は Hellsten (1942) によつて述べられた。人体の静脈の大部分、殊に下肢の静脈は静脈撮影法によつて研究されて来たが、骨盤静脈の研究には比較的関心をもたれなかつた。

然し近年泌尿器科的手術の進歩に伴い、種々なる骨盤内の手術が行われるようになり、そのために前立腺、膀胱等の深部骨盤静脈の知識が必要となつて来て、多数の骨盤静脈撮影法の発表を見るようになって来た。本邦に於ても既に市川、落合、西浦氏等及び土屋、清寺氏等の詳細な研究がある。今迄発表されて来た術式を略記すれば次の如くである。

- ① 筋膜下陰茎背側静脈を切開露出する方法 (Fitzpatrick, 土屋等, Boyce).
- ② 陰茎根部に於て止血帯にて ① の静脈を怒張せしめる方法 (市川等, Abeshouse).
- ③ 陰茎海綿体を使用する方法 (市川等, Baux, de la Pena).
- ④ 陰核海綿体を使用する方法 (Guilhem, de la Pena, 市川, 土屋).
- ⑤ 経骨髄性骨盤静脈撮影法 (Prasmar, Baux, Guilhem, Kahr).
- ⑥ 子宮静脈系を使用する方法 (Guilhem, Vecchietti).

以上の方法があるが、① は筋膜下陰茎背側静脈を露出する操作を要し、② の陰茎根部に止血帯をかける方法は老人に於ては勃起せしめる事は困難であり、又 100% の成功は望めず、③ の陰茎海綿体使用は持続勃起症になる危険を有し、④、⑤ に於ては局所麻酔にては相当の疼痛を与え、⑥ は女子のみであり、又技術的の困難を有すると云う。

我々は初め ⑤ の恥骨々髄使用による経骨髄性骨盤静脈撮影法を行つて来たが、患者に相当の苦痛を耐えさせねばならなかつた。所が Dalali 等 (1954) が股静脈を穿刺して造影剤を注入する簡便、容易な方法を発表しているのを知り、この方法を追試し、その術式を紹介するとともに、未だ少数例であるが得たる成績の概要を報告する。

術 式

股静脈は鼠蹊帯直下に於て股動脈の内側にその場所が決められる。臍部に排泄性腎盂撮影法に使用する尿管圧迫帯にて強く圧迫を加え、注射筒にあらじめ造影剤を充たし、16~18 ゲージ針を接続して該

静脈に穿刺をなし、造影剤を注入する。造影剤は 70% Urokon (邦製 Urokolon) を左右夫々 25cc を使用し、注入速度は全量約 15 秒にて注入する。注入の終了瞬間に X 線を露出する。X 線撮影条件: 75KVP, 120mA, 0.2 秒, 距離 70cm. 実施前に造影剤に対

第 1 図



症例：54 才，♂．膀胱腫瘍．
70 % Urokon 25 cc を夫々両側股静脈に 15
秒で注入，73 KVP，80 mA，0.25 秒で撮影，
両側外腸骨静脈，左内腸骨静脈等を描出し得
た．

する患者の過敏反応を検査するために 1 cc を静脈注
射して何等反応の起こらない事を観察しておく事は
必要である．静脈撮影後引き続いてそのまま排泄性
腎盂撮影像が得られる．

臨床成績

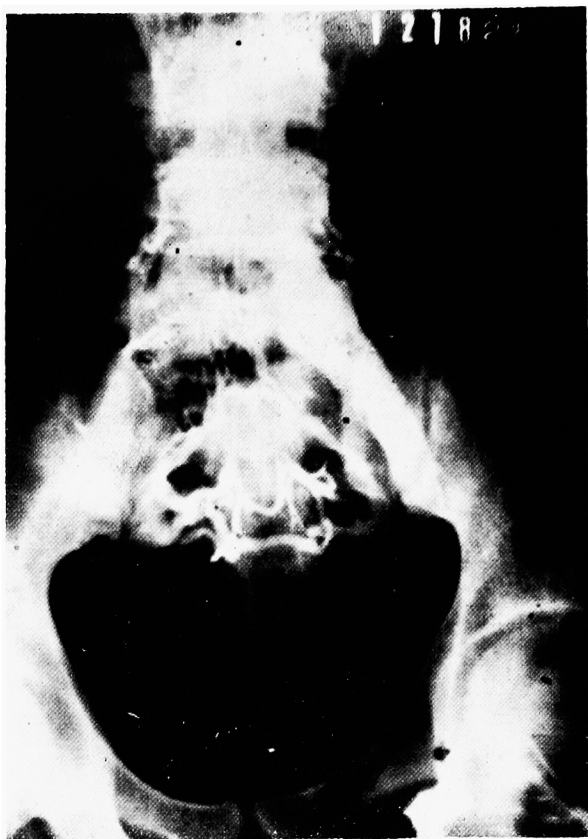
本法による骨盤静脈像は殆んどすべてに，外腸骨静
脈，総腸骨静脈，下腔静脈が描出され，骨盤の深部静
脈として内腸骨静脈，膀胱静脈叢が描出される（第
1，2，3a 図）．引き続いて得られた排泄性腎盂像は普
通の静脈注射に比し，高濃度の造影剤の多量（70%

Urokon 左右計 50cc）を使用しており，極めて鮮
明な像が得られる（第 3b 図）．

総 括

前立腺，膀胱等の骨盤内臓器疾患の診断治
療上に，骨盤動脈像と同様に骨盤静脈像を知
る事は重要な事である．前者の方法に關して
は我々は既に股動脈に造影剤を注入する経股
動脈性骨盤動脈撮影法としてその術式を発表
した．後者に就ては緒言に述べた如く，種々

第 2 図



症例：21 才，♂．右腹腔辜丸．
70 % Urokon 25 cc を夫々両側股静脈に 15
秒で注入，75 KVP，120 mA，0.25 秒で撮
影，両側総腸骨静脈，内腸骨静脈，膀胱静脈叢
等を描出し得た．

の方法が発表され，詳細な研究報告がある．然し何れも特殊の操作を要し，或は患者に相当の疼痛を耐えせしめねばならぬ等の不利益がある．而るに Dalali 等が発表せる股静脈に造影剤を注入する方法は極めて簡便，容易に実施し得られる．我々は本法を追試して，数例にすぎないが満足すべき像を得たので，その術式を紹介するとともに，我々の得た像を

図示した．本法による副作用は経験しなかつた．

(本論文の要旨は 1954 年 10 月 3 日金沢大学に於ける日本泌尿器科学会第 5 回中部地方連合会にて発表した．)

恩師稲田教授の御指導と御校閲に深謝する．

第 3 図 a



症例：64 才，♂．膀胱腫瘍．
70 % Urokon 25 cc を夫々両側股静脈に 14
秒で注入，78 KVP，80 mA，0.25 秒で撮
影，外腸骨静脈，内腸骨静脈，外仙骨静脈等を
描出し得た (a)．

文 献

- 1) Dalali et al. : Surgery, Gynecology and Obstetrics, 98 : 735, 1954.
- 2) 市川，落合，西浦 : 外科の領域，1 383, 1553.
- 3) 土屋，清寺 通信医学，6 : 179, 6 : 263, 1954.
- 4) 西浦 : 日泌誌，45 : 363; 45 : 379, 1954.
- 5) 後藤，大森 : 泌尿紀要，1 76, 1955.

第 3 図 b



第 3 図 a に引続いての排泄性腎盂像 (15 分
後) であり，影像は鮮明である
